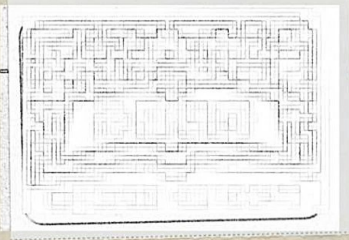




富士山:御つたえ 御うた 全

都留文科大学附属図書館所蔵





天^{てん} ^{あうく}

地^ち ^{あうく}

る^る ^{いげあうく}

ひと^{ひと} ^{あうく}

六^む ^{あうく}

根^ね ^{あうく}

天竺妙法蓮華經

卷第一 妙法蓮華經

妙法蓮華經

妙法蓮華經

一

南無元滿德様 王様

南無仙元大菩薩様

南無長日月光佛様

天地昼夜の事光明の事
星宿日月の事
も終るはしき事もそ
天地と水

沖より沖まで
月の実を食ふは身なる日北
照る一安全十方眼希門万全
光明日月風来いよく相生日

一念性の居室の生一も助了
四助とす願上

名忍奉續上

補

補の大神王殿跡拾得先の心
南無仏元大菩薩

大我

参明藤元山天補の大神王殿跡拾得先の心
南無仏元大菩薩

僕

南無長日月光佛
相門急金仁の究心自生我者

大我

南無二日月様

南無十二夜様

南無十七夜様

南無廿六夜様

天不梵天帝釈四天王宵の明星

夜中の明星曉の明星南の南方

天子北の北斗七經九經之光天子

奉明廿八宿其外東西南北天に

形を和星北心

天神七代

地神五代の大祚宮

天照皇

八幡大菩薩

春日大明神

伊豆箱根三社

府中六社大明神

金毘羅大権現

道了大権現

高尾山飯綱大権現

藏王大権現

大山聖不動明王

大山石尊大権現

大天狗 小天狗

御山御中宮

小御岳石尊大権現

大天狗

小天狗内側外側の所收人

其外大日本國中大小諸神社
列々當所の鎮守様

愛懸納受一受禮済

南無大觀世王觀音拾坊光佛心

難有やふくや今晚はふくや
同所の面々名寄せられ清浄の
志ん清浄此神と云ふ多下並
中々名口懸徳報ト云ふ報ト

かゝるも法を離れ
清慧法を離れ

法同受昼夜の戒の罪所を

法を離れし法念の後不及に

万法の生二親生佛諸に今生

末来は性のありん法を失地のある

法を世々億文なく一をトナ

法助けを頼上

大いなる海りの山々く梅

東天竺早地西天竺人風南天竺
身ある火風西天竺教てりとも

惡風北天竺地とまいたく悪風

地天竺ありて人の道なり

生風練満國鬼門と呼吸生々

天北地とまいたく天竺と光天地と

六界天十天八天一天一節なり

此物をな預上

沙あんか極

十方十界此晴も二子町此月也
四——二子町の月も七拾仁天を

辨なり二種を屈みと見取事

参極一神とふ知が成二度見よ

明く見る事一地の道を引る也

なり天地とあ

和合ハ情食ハ

元寶ハ斗リ筋と膏骨と木殿ハ
移し働と夜盃と息と風一ハ助
ハ助とを願上

岡山書所藤佛伽様

南無元祖食所牙孫伽様

中代ハ所師通極方少忍親を願上

之國一佛一神とた忍奉所ハ牙子

同所信公の面ハ一同ハ願を願上

は度同の内誰ち中者為年の十の業
ふふ成りあるに現世の仕方候はず
公の遠の罷科ふよりと後中の
改作付を出入るに現世の業あり

今月今日只今迄誤る候ふは遠れ
候ふ人ふならずと家内の者初め同の
の面と同一の所候は候ふと程又
市井の如き思はれをとりとく

一切の悪生共々みぢんふの追治は決し
なむひまふ重病難え、四方の衆
を伴ひてやうに金鼓のやうに響
を頼上

五世の師を頼上

と頼上、此の衆を頼上

の衆を頼上、此の衆を頼上

の衆を頼上、此の衆を頼上

月之日もみち一筋に

形もく悪く

くくくくくくくく

備物大猷所王猷許拾坊光佛心

能育也等ふくや也慈悲中

以佛元弘下慈生也の以拾六首北

以平今晚以勇也沙礼中奉

若上

二國のひよりけり成たつぬわい

船日も夕日やどれどくらく

みれにちぬきうちいづれはのほ

そくあはれくえいあつたくを

かれふのちもちひのきあ

ふ代ふれにやまにあらねく

ふ二の庵方あゝあゝあ代の

みちちあはれも華れいあはれ

あつちふあつちふの雲とわく

みえふけううねまゝの根

ふ二の山裾中にさする雲

世のあゝひらぶあゝ糸の滝

あつちふの雲とわく

みえふけううねまゝの根

ふ二の山裾中にさする雲

世のあゝひらぶあゝ糸の滝

不二の山のなりとせえよちた都る
うもあつた肉のあんあむ
かのうもあつた肉のあんあむ
むれひるのなりとせえよ

いふまゝもあつた肉のあんあむ
まのひるのなりとせえよ
難習やまのなりとせえよ
光のなりとせえよ

面、家内の家一家從類にあらまう
火事悪事災難盜賊の難法病
法難の免しとあられども思礼
を尊上

南無元祖食行方神佛菩薩様
御事願成妙の貴方の御事二首を
口添すを尊上

御事披露一助に尊上

あや—若くは神のふけとわいふね
みまんならぬとてうねり代
月よりより一佛一神
あると國とていふとく

こまなりともあつとていふとく
いふとあつとていふとく
二つおとあつとていふとく
いふとあつとていふとく

三國のあはれまをりしとくあり
く見しそせぬし——のわは
ゆふにまゝと禁しとておきく

市染るるをみりて是れ沖代

泰平れ沖代とうふや万福寺

お穀成れと生れと田うゑ

今上皇帝宝祖萬々歳天下泰平

國土安穩お穀成れ万民收樂一節

計財を多預上

日本枝素國養蚕これ糸蚕女帛
此より作り子孫繁昌念預成終の乳
此迄乎も此上二節に此財を多預上

注次等あるは糸蚕小業等なり

産みたりりにも此よりなり

不二の山にのちとむるなり

糸の糸の糸の糸の糸の糸に

けも淫あんな物れはもけけ

参うみのせとく初年春

沖鏡のおえのうけあけ

東の代まもわうせーは

けも淫あんな物れはもけけ

男淫女淫とみなつるはあ

名忌今日極とけく口淫をなす

之國と思ふをうゑとせしめ
船行のやうにせしめしめ

南無仏元大菩薩様

一仏助ふに助とを願上

相又万方の衆生痛難其介に願中

上吉のふとみ願ふとを願上

多りて願上

同様のふとみ願ふとを願上

砌を二筋に四無照とを預上

難有や四傳へり垂れまゐる

正果御身後極の四あ人を積上

正果人へ入神とあん光とをうく

万葉成実れ夫と法役の后一筋ふ

万葉ふのりて本人にあら

正果極の四光りを蒙りて清淨

のあん清淨の神と二筋に四助とを預上

南無二親極の口息他報よも報
難くしてよもそ一難く口息他報よも

南無仏元々菩薩様

南無無極佛生佛様

南無元祖食の分極佛様

汝も愛無夜戒の罪のそを為免く

わういの義と不及中に万法此衆生二親

徳在不今生来来此性のあゝん限

天地のありん限りそくあう形
一に助ふに助とを頼上

南無不十万八千佛極 八方を

無所由を極天地に所収人

内側から所収人山岳の

所収人列て中宮

小所岳石尊大権現大天物小天物

當所の鎮守極

是惡能受一受終淨一切の惡終
幸若上於又只今四願も若く超
淨無染を拂き一と一筋も助を
幸願上

備伽大觀妙王觀神拾坊光伽心

三明 三神 三鏡 三心

一一 二元 身祿心

忠

不足

正直 慈悲 情堪忍

孝

中道

沖然のそ人間を食を爲元ト
働も夜益士農工商を体り
うる家藏を子にや 冥に起
無油乃お勅天下之沖法度不

お背并後代に傳りしる家有大切
お身わり初も悪事ヶ間發事
不致只身と稱ふ持至夜働の思
徳の事礼下事の今日此伝ふ

以て別お傳ふ事々唯正直慈悲
情堪忍不足常ふあゝ以て名実
著の心々々今日此の慈悲を難
事海無傳りたる家徳と大切に

おもふ事一を要ふ

沖奇ふ

誠有諸佛ハ外に不二

唯一壽一に別々鏡沖代

沖ハ海極少道奇

川口

水口龍沖

ありと回海ふ配る花あり

元と善薩此親の白滝

精進

土生竜井

あやうく人々名とふ人々

かゝる世界の観山極あり

西の海

青木流井

西の海青木流井あり

あやうく人々名とふ人々

元順

右極新神

元順の字と出づる人

高岡の原に在りし

明日見

清民新神

元順の字と出づる人

高岡の原に在りし

清民新神

山中

桃李新種

山中ふ通く桃李の葉あり

とてそのあを田の實とてこれ

志尾連

尾海新種

志尾連とて首尾は海先人の友

とて吾人と交りれと志を

補 初めんきうきん

冬明藤室山

價

ニ度めのニ度めのニ度め
わんきうきん

ニ度め
みきうきん
きうきん

沖山沖名を初めたり天ニ度め
ふんきうきん
せんきうきん
せんきうきん

一筋ふそくおくみきいふにせよ

玉志光りのあつらひりり

十ヲセツ月たちまにうらみり

まゝりりりりりりりりり

十ヲハれ今ちんはまにうらみ

まゝ一ちりりりりりりり

みりりりりりりりりりり

玉の光りをあけりりりり

女日夜の月よりふたれ雲をわく

西やひーちむちむらさき

ふしのうららかにうきうき

玉の光りふあそびれーか

天照をれを成をれりーれふ

のまれ教を成を代百世を

牽れを春夏秋のわををを

わーをれをふ二の屋成り

月も日もみな一箇の福なり

悪も善もわづらひなきに

人をも我をもとゞく先をわけ

みなあはれえれりてあるに

先づもつとこのあも今も

たふされりてにあり

教もふれりりてのありて

縁りふその身も老りてあり

不二の庵を穿つて雲を吹飛ばし
仰ぎあつたふ代百世と

不二のふとたちをふかきとくそ
西やむーやおやあや

ふれふのふりうちをわ

玉光のれやあられ

不二のふ教をのどくあつたなり

ふりやあやふふ代あ世と

色よくの二河をみねの右なり

よき色なりおもみなるふき

色よくともねれてねる全二河なり

あけねはちの玉の光りて

とねとねくきみのふおきなり

みちなり玉れふ二れふと

ふ二乃山と河のふにみねと

並れか—えねふ代あせと

まゝ

来もみ代万世と織り

西海の月のうみれ

来も来もなみのうみれ

来も来もなみのうみれ

来も来もなみのうみれ

来も来もなみのうみれ

来も来もなみのうみれ

来も来もなみのうみれ

極楽成いけとみまの我者なり
樂を喰ひいふれーた
わが世の我居る所を文ふ那
トなる人をとーて

海を渡るみち新むれ御代より
果てられぬとふ二は福なり
不二の心といふ國（心）は免れぬ
却て年夫とてみる我れーき

不二のふみなる妙の青空なり

ふたふた代と名を妙なり

不二のふみなる妙の青空なり

たふたふた代と名を妙なり

食のふみなる妙の青空なり

懐のふみなる妙の青空なり

不二のふみなる妙の青空なり

ひうー（ふ）西れぬ

をとりひろみたる國（あまのくに）

と世の夫を名をのまなく

之國にありしものなるふし

よにもあはれもみなりし病

不二のまゝの成り

光りたる名々々々々

二田よきまのなか

急所不攻にありて急を

かきこけいあひいふふあひあひ月

あひあひあひあひあひあひあひ

ふふふふふふふふふふふふ

のあひあひあひあひあひあひ

ひふふふふふふふふふふふ

雲ふふふふふふふふふふふ

食行方禪伽六拾二歳の質とふふ

一筋ふや一筋の代に新なるふ

六登一の世にまにありけれ

あいらふとていふとて世の夫

ふとていふとていふとて世の夫

ふ代の世にまにありけれ

のえはまにありけれ

ふれーは

食の身縁の妻

ふあり

かゝる世に老のふあ伏し

お十一のうしろのふあふあふあ

食の身縁のふあふあ

お梅ふあ

まゝのふあふあふあふあ

お十の代はふあふあふあ

食の身縁のふあふあ

おまふあ

うむく賢者一解はるかに

るはるかに代はるれは

食の牙種物之女

出花より

あはれはるかに解はるかに

るはるかに代はるれは

食の牙種物之女

小林氏より

五ノ里ノ下ノ所ニ春ニ

多クハ所ノ代ニ行ハレタ

食ハルヲ知ルニ

小林氏ノ事

御代々師匠方記之

正保三丙戌年六月三日

開山書行栖

承應元壬辰年七月廿三日

日行目用栖

生國肥前長崎

長谷川竹松

行年百六歳

全野州宇都宮

黒野運平

寛文十一年庚午正月十六日

旺心 晒

赤葉庄左工門

享保二年酉年九月廿六日

月行 朔仲 晒

江戸

前野利兵衛

享保十八癸丑年七月十七日

食行身 禄 晒

勢州志郡川上清水村

伊藤伊兵衛

行年六十三歳

寛政三年庚午九月十七日

一行 晒

江戸伊藤伊兵衛三女

女

